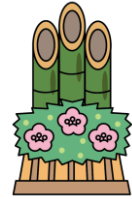


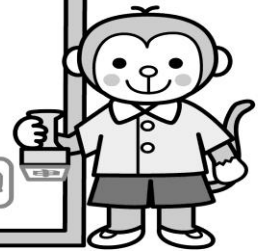


1月食育だより



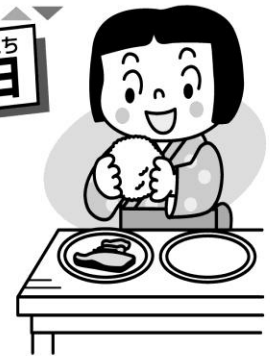
あけましておめでとろございます

今年もみなさまにとってよい1年となりますことをお祈りしています。学校給食も安心・安全でおいしくできるよう取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



ぜん ごく がっ こう きゅう しょく しゅう かん 全国学校給食週間

1月24日~30日



明治22年、山形県の小学校で家が貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちへ昼食を出したのが、学校給食の始まりとされています。その後、学校給食の取り組みは全国へと広がりましたが、昭和16年に太平洋戦争が起こり、食料不足のため実施することができなくなりました。

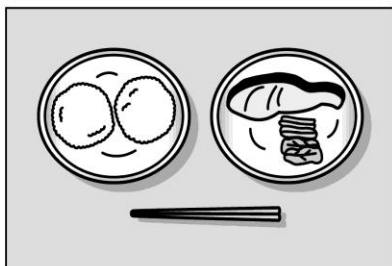
戦後、子どもたちの栄養状態が心配されたことから、学校給食の必要性が叫ばれるようになり、アメリカの民間団体（ララ）からおくられた物資で給食を再開することになりました。昭和21年12月24日、東京、神奈川、千葉の三都県の学校で学校給食を再開することになり、給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」とし、冬休みと重なるため、1か月後の1月24日~30日が「全国学校給食週間」となりました。



給食の移り変わり

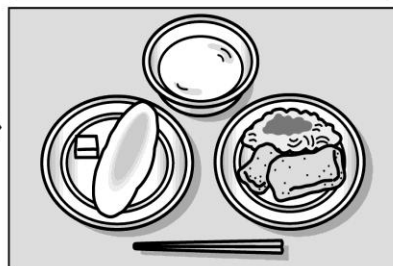


◆明治22年



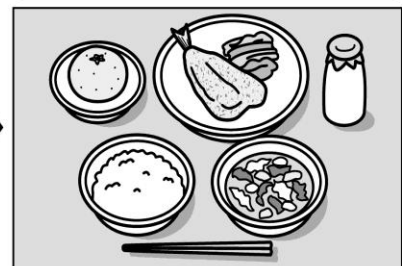
お寺の中に開校された私立忠愛小学校の献立の一例。お米と野菜や魚のおかずが中心でした。

◆戦後（昭和25年ごろ）



コッペパン・ミルク・おかずが基本で、外国などからおくられた支援物資の脱脂粉乳や小麦などを使って作られました。

◆現在



バラエティー豊かになりました。バランスの良い食事のお手本となるよう、“教材”としての役割も担っています。